







みんなのパン屋さん 木村屋さん

49年間ありがとう!!



おつかれ様でした



ついでに

今年もあつという間に4月。昼間はあたたかくなり、山桜の花が咲き、春の訪れを感じる毎日。たくさんのお別れの中に、新たな旅立ち。

そんな3月31日、この屋久島島民の生活を支えてきた店が49年の幕を下ろした。

みんなのパン屋さん、木村屋さん。昨年より、店を閉めることは知っていたが、あつという間に3カ月経ち、その時を迎えた。

閉店4、5日前から、町の中も忙しい。この時期、退職、送別の花など注文が多いのだが、31日だけは木村屋さんへの注文が多かった。うちも、閉店する店に花環や生花を飾ったのは初めて。

みんな、花を注文に来ては、いろんな話を話してくれた。

「昔は現丸高さんの所が始まりだった」「私も子供も木村屋さんのパンで育った」「島外にいる子供や友達にパンを送ってあげるんだ」など。

みんな、自分達の生きてきた人生と重ね合わせ、たくさんのお話とともに花を買って行かれた。

店が開く前からたくさんの人ばかり、車は数珠つなぎ。

開店と同時に普段より多めに作られたパンは一瞬でなくなりました。パンはなくなっても、店内外に並ぶお客さん。そう、店奥で、きつい身体を無理させながらも、お客様のために力を振り絞り、作っている姿。そんな心のこもった最後のパンを待っているのだ。そんな状態に何か心が熱くなった。

振り返れば、朝早い寒い中、パン作りを始め、何ともたまらない香りの中、店がオープンする。

今も昔もかわらないパンを、二人の笑顔とともに提供してくれた。玉子サンド、コロッケパン、カレーパンにマヨネーズパン……。

ほんと、パン作りが二人の人生で生き甲斐だった。もしできるのであれば、そんな思いを引き継ぎ営業してもらいたいと思う人は多いだろう。

夕方になり、パンも何もなく、灯りのついた店は、やりきったように見えた。

木村屋さん、ほんと、49年間ありがとうございました。そして、おつかれ様でした。

屋久島島民一同  
屋久島サル・シカ一同  
より